



北方民族博物館だより

No. 100



これまでに刊行された「北方民族博物館だより」
(開館特集号、1・10・20・30・40・50・60・70・80・90号)

当館の行事報告やお知らせなどを掲載してきた北方民族博物館だよりは、今回で100号を数える。1991年3月に刊行が開始された北方民族博物館だよりの表紙には、博物館に問い合わせのあった資料や新たに寄贈された資料、常設展示以外に紹介したい資料など、これまでにさまざまな資料の写真と解説が掲載されてきた。

表紙で扱われた資料を民族別にみると、エスキモー／イヌイトが20回と最も多く、北西海岸インディアン11回、コリヤークとナーナイ9回、アイヌ8回、ウイльта7回、サミ6回、アサバスカ・インディアンとサハ4回、ウデヘ3回、アルゴンキン・インディアンとニブフ2回、イロクオイ・インディアン、アリユート、トゥバ、チュクチがそれぞれ1回であった。オホーツク文化、擦文文化などの考古資料は、4回扱われた。

目次 Contents

- 1 これまでに刊行された「北方民族博物館だより」
- 2 ロビー展「山本睦子がつくる北欧フィンランド伝統のクリスマス飾り^{ヒンメリ}Himmeli作品集」
／講習会「フィンランドの伝統装飾品ヒンメリづくり」／講習会「アイヌ文化講習会 木彫り」
- 3 ロビー展「近藤典生と自然動植物公園」／講座「北方民族の動物利用」
- 4 平成27年度企画展「雪と氷と北方民族—北の人びとの冬の暮らし—」
- 5 講座「カムチャツカの氷下漁」／講座「雪と氷の神秘」
- 6 INFORMATION



北海道立北方民族博物館
Hokkaido Museum of Northern Peoples

ロビー展

山本睦子がつくる北欧フィンランド伝統の
クリスマス飾り^{ヒンメリ}Himmeli 作品集

2015. 12. 4-2016. 1. 6

講習会

フィンランドの伝統装飾品
ヒンメリづくり

2015. 12. 4

講師 山本 睦子氏（ヒンメリ作家）

ヒンメリは北欧フィンランド伝統のクリスマス飾りで、麦わらから作られたモビールです。正八面体を基本とした素朴なオーナメントで、最近日本でも紹介されるようになりました。

札幌在住の山本睦子氏は、ヒンメリ作家として道内外で数多くの活動をされています。フィンランドの作家とも交流しながら創作される山本氏のヒンメリの特徴は、自ら材料となるライ麦を育て、厳選した素材にこだわり、伝統的な手法をふまえながらも、優美で繊細にしあげていることです。



山本 睦子氏

今回の作品展では山本氏が北海道の風土を意識して作られた作品を紹介しました。ヒンメリを初めて知る方も多く、ゆったりと動くヒンメリに興味深げにご覧になっていました。

本展は、フィンランド大使館、在札幌フィンランド名誉領事館、北海道フィンランド協会の後援をいただきました。

12月4日には山本氏を講師に、ヒンメリづくりの講習会を行いました。

当館でのヒンメリ講習会は二度目です。水分をふくませて柔らかくなった麦わらを、テキストの指示どおりにはさみで切ることからはじめました。切り終えたら、たこ糸を通した針をつかって、麦わらをつなげてゆきます。前回よりも格段に難しくなった内容に、参加者は苦労しながらも楽しげに取り組まれていました。

(学芸グループ 笹倉 いる美)

講習会

アイヌ文化講習会 木彫り

2015. 12. 5

講師 岡田 恵介氏

(公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構事業一課係長)

アイヌの生活用具のなかには彫刻がほどこされた、さまざまな木製品があります。特に、^{ほうしゅばし}捧酒箸（アイヌ語でイクパスイ）とよばれる儀礼具には、線刻や透かし彫り、浮き彫りなどをみることができ、当館では平成27年10月31日（土）～11月29日（日）の日程で捧酒箸の展示を行いました。

12月5日には、岡田恵介氏を講師に、彫刻文様のついた茶さじを作る講習会を行いました。



岡田 恵介氏（左）

茶さじは、アイヌの生活用具ではなく、和人向けの土産品として作られたものです。講師はスライドを用いながら、アイヌが製作した^{ちゃさく}茶托や手ぬぐい掛けなどの、木彫りの土産品の歴史的位置づけについて講義をされました。

次にシナノキを材料にして茶さじづくりにとりかかりました。使う道具は切り出し、平刃、丸刃の彫刻刀です。アイヌの彫刻でよく用いられる「ウロコ文様」に挑戦しました。下書きされた線に従って、切り出しで格子状に線をつけ、切り出しの先端を使ってひし形になったマス目の下半分を彫ることを繰り返すと、ウロコ文様になっていきます。

次に茶さじ全体の形を整え、最後にオヒョウの樹皮でつくった紐を通すとできあがりです。

いつもより男性参加者が多く、木彫り談義に興じておられました。

講師からは入間市博物館、北海道立旭川美術館で開催の木彫品が多数展示された「木と生きる アイヌのくらしと木の造形」の紹介もされました。

(学芸グループ 笹倉 いる美)

ロビー展

東京農業大学学術情報課程実習成果展示 近藤典生と自然動植物公園

2015. 12. 5-12. 13

当館では、東京農業大学オホーツクキャンパスで学芸員課程を履修する学生の実習として、毎年この時期にロビー展を開催してきました。今回のテーマは、檻のない動物園や共生の思想を実現しようとした東京農業大学名誉教授・近藤典生氏の業績を振り返り、生物の飼育・展示のあり方を再考するというものです。同大・宇仁義和准教授の指導の下、大学生がグループごとに展示作業をおこないました。

本ロビー展は4つのコーナーから構成されました。まず「人と仕事」では、探検行程図や旅行鞆、絵はがきなどで近藤氏の経歴・探検調査歴などを紹介しました。

次に「新たな動物と広がる世界」では、近藤氏が日本に紹介・導入した動植物として、バオバブやレムール（キツネザル類）などを実物大の写真や骨格標本で紹介しました。

また「自然動植物公園の思想と実現」では、近藤氏が提唱した、檻をなるべく使わず、動植物と景観が調和した展示について、実際の動植物公園の写真から紹介しました。

最後に「環境問題への回答」として、現代の農業や環境問題に対する解決策として近藤氏が研究・提唱したホロホロ鳥の放し飼いやアイガモ農法などを紹介しました。

会場中央には、絶滅した巨大鳥エビオルニスの全身骨格のレプリカが展示されました。近藤氏が調査でマダガスカルを訪れた縁で製作され、日本国内唯一の標本です。

短い展示期間にもかかわらず、本ロビー展には644名の観覧者が訪れました。

(学芸グループ 中田 篤)



学生の見学会の様子

講座

北方民族の動物利用

2016. 1. 30

講師 渡部 裕氏（当館研究協力員）

当館の学芸員を、2015年3月をもって退職された渡部裕氏を講師としてお招きし、北方民族の動物利用について紹介いただきました。



渡部 裕氏

講座では野生トナカイを代表とする陸獣、セイウチやアザラシなどの海獣、サケ、マスなどの魚類、ライチョウなどの鳥、イヌや家畜トナカイといった使役獣や家畜と北方民族の関係について、生業活動と自然環境の観点から整理され、そこから派生する動物素材の利用や定住/移動といった居住形態、食にまつわるタブー

や食中毒、さらに白人や先住民同士の文化接触とその影響など、非常に広い視座から北方民族と動物の関わりを紹介いただきました。

講座ではまず、渡部氏がこれまでに現地調査を行ってきたカムチャツカについて、この地にロシアが進出してきた頃からの歴史についてお話がありました。また氏の聞き取り調査の中から、夫が狩猟に出かけている間の妻の役割や、戦前にサケ猟に訪れていた日本人と先住民の関係について紹介がありました。

次に講座の内容の中心となる北太平洋沿岸文化に共通する特徴について説明があり、現地の先住民の動物利用全般を、特に動物素材の用途と使役動物の役割に力点を置きながら説明されました。

続いて北方民族の生業活動を自然環境の違いから整理された上で、定住/移動といった居住形態を生業活動との関係から解説いただきました。その上で、効率的な食料獲得という観点からだけでは説明が出来ない食のタブーを、様々な事例を用いて紹介されました。最後にカリブーやライチョウを狩猟してはいけないというポーラーエスキモーのタブーが、そのタブーを持たない別のエスキモー集団と接触していく中でどのように変化したかについて説明されました。

(学芸グループ 野口 泰弥)

平成27年度企画展

雪と氷と北方民族 —北の人びとの冬の暮らし—

2016. 2. 6-4. 3

冬の北方地域は寒さが厳しく、雪や氷に覆われます。北方民族は、知恵と工夫によって生活の障害となる雪や氷を克服し、冬季の環境に適応してきました。

本企画展では、まず前半に雪結晶の顕微鏡写真24枚を展示し、雪結晶の構造を知っていただくとともに雪と氷の性質について解説しました。後半では、北方民族が冬に用いた衣服、運搬・移動用具、除雪具、漁労具などの資料を展示し、冬の暮らしについて紹介しました。



雪結晶の顕微鏡写真(菊地勝弘氏提供)

＜雪氷とはなにか＞

雪は、空中の水蒸気が大気の上層の気温が低いところで氷の結晶となったものです。

まず、上空のごく小さなチリなどの核に水蒸気が付着し、氷晶^{ひょうしょう}ができます。氷晶は、雪のできはじめの状態で、100分の1ミリほどの六角柱形をしています。

氷晶が大気中を落ちてくる間に、水蒸気がまわりに付き、雪結晶へと成長します。気温の高い地域では、雪結晶同士がぶつかってくっつきあい、雪片^{せつぺん}になります。これが「牡丹雪^{ぼたん}」や「綿雪」です。温度が低いと雪片にならず、そのまま「粉雪」となって落ちてきます。

氷は、水が低い温度のなかで分子の動きが鈍くなり、固体の状態になったものです。氷は、密度が水より小さいため、水に浮き、圧力を加えるととけます。また、適度に強度があり、自然界で最も滑りやすい物質とされます。

このような雪や氷の性質を活かすことによって、北方民族はそりやスキー、かんじきを雪氷の上で利用し、川や海の表面にできた氷の上や下で、狩猟や漁労をすることができます。

＜北方民族の冬の暮らし＞

冬のあいだ、北方民族は断熱・保温効果の高いトナカイなどの毛皮を素材とした衣服や靴、帽子、手袋を着用しました。衣服には、毛皮を二重にし、フードをつけるなど工夫がなされるものもみられます。展示では、実物資料としてカムチャツカのコリヤークが用いた二重トナカイ毛皮製上着、西シベリアのネネツが用いた毛皮製靴などを紹介しました。

寒さの厳しい地域では、例えばカムチャツカ半島北部の沿岸地域に住む海岸コリヤークのように、保温性の高い半地下式の住居に住む人びともいました。サハリンのウイльтаはトナカイ飼育民で、移動生活をしてきたためテントに暮らしました。これらの住居について、10分の1スケールの精巧な模型を展示し解説しました。

冬の北方地域では、河川や湖沼、海の沿岸の水面が凍り、地面には雪が積もります。このような環境のなかで、北方民族は、そりを運搬・移動手段とし、北方ユーラシアではスキー、北アメリカ北部や北東アジアではかんじきといった雪上歩行具をうみだしました。展示会場では、アムール川流域のナーナイのイヌぞり、ロシア沿海地方ウデへのヤギ毛皮付きスキーなどを展示しました。これらの冬の運搬・移動手段と歩行具は、雪と氷が非常に滑りやすく、また適度な強度をもつという性質を利用しています。

北方民族の多くは、食料が入手しづらい冬でも、陸獣・海獣の狩猟や漁労を行ってきました。例えば、カナダやグリーンランド、アラスカに暮らすイヌイト／エスキモーは、氷上でアザラシの呼吸孔を見つけ、待ち伏せ猟を行いました。また、水面に張った氷に孔をあけ、釣り、網漁、ヤス漁などを行いました。実物資料として、エスキモーが氷上猟を行う際に用いた氷上狩猟用椅子や雪原でカモフラージュのために用いた白いスクリーン、氷下漁で用いた砕氷のみ、氷すくい、ヤス漁用のルアー等を展示しました。

北方民族の冬の道具も工夫に富んでいます。今回の展示では、イヌイト／エスキモーの雪払い具、海獣骨でできた除雪用シャベル、靴の底に付ける滑り止め、雪原の照り返しから目を守る雪めがねなどの資料を紹介しました。

(学芸グループ 種石 悠)



会場の様子

講座

カムチャツカの氷下漁

2016. 2. 6

講師 大島 稔氏（小樽商科大学特任教授）

企画展「雪と氷と北方民族―北の人びとの冬の暮らし―」の開催に関連して、小樽商科大学の大島稔氏にカムチャツカ半島北部の先住民コリヤークの冬の漁について、解説いただきました。カムチャツカ半島は、大島氏の言語学・民族学の調査フィールドです。今回は2002年と2003年の冬に、カムチャツカ半島東海岸で調査した氷上釣りこおりしたまちあみりょうと氷下待網漁の様子について、お話しいただきました。



会場で質問に答える大島 稔氏

湾口に発達した砂州によって外海と切り離されてできた湖のことを潟湖せきこといいます。大島氏は、2003年冬にホロ口祭りと呼ばれ

るアザラシ送りの儀礼の調査でカムチャツカを訪れた際に、凍結した潟湖で氷上釣りをを行う先住民コリヤークの人たちに出会いました。

凍結した水面にドリルで孔をあけ、疑似餌のついた釣り針で、産卵のため海の沿岸から河口に向かうコマイやキュウリウオをねらいます。

カムチャツカ半島東海岸は湾や入り江が多く、晩秋になるとコマイがここに近付いてきます。コリヤークは現地で「カンゲーナン」と呼ばれる先端かぎに鉤のついた棒を用い、氷に孔を開けてその近くに腹ばいになり、近づいてきたコマイを引っかけて捕りました。川幅が狭い河口では、容易に魚が捕れたそうです。

また、漁師は秋にイワナの大群を見つけると、氷が張る頃にまたその場にやってきて、イワナがいる場所の氷に大きな孔をあけ、手づかみでイワナを捕ったともいいます。

氷下待網漁は、湾の奥で行われます。水面に張った氷に孔をあけ、そこから漁網を入れて、岸に対して直角になるように張ります。川の流れや魚の動きをよく理解して、網は設置されます。

コマイの伝統的な食べ方は、凍ったコマイを削ってアザラシ脂に浸して食べるというものです。

なお、これらの漁はあくまで補助的な生業です。コリヤークにとって冬は、祭りと交易の季節になります。

(学芸グループ 種石 悠)

講座

雪と氷の神秘

―氷の結晶構造、雪結晶から南極氷床、流氷まで―

2016. 2. 20

講師 亀田 貴雄氏（北見工業大学教授）

寒冷な北方地域では、雪や氷は自然環境の一部として、そこに住む人びとの生活に大きな影響を与えてきました。本講座は、企画展の関連事業として、雪や氷の神秘的な性質、地球環境における位置づけなどについて雪氷学の立場からわかりやすく紹介いただきました。

最初に、氷と雪の性質に関する説明がありました。氷や雪の結晶は六角形をしています、これは氷の酸素原子の配置が六角形になっているからだそうです。そして、一般的に物質は固体の方が液体よりも密度が大きいのですが、氷は隙間の大きい構造をしており、水よりも密度が小さいので浮きます。もし氷の密度が水より大きかったら、例えば湖は底から凍るので、貝などの底生生物は死んでしまいます。そう考えると、現在の地球環境は、このような水と氷の特殊な性質によって出来上がっているということもできるのです。



図をみながら解説する亀田 貴雄氏

また、海水や流氷についての解説もありました。海氷が形成される過程や海水の種類・構造、オホーツク海の流氷の分布や面積、氷の厚さ、流氷がみられる期間の変化など、網走市やその近郊の住民にとって興味深い話題にも触れていただきました。

その他、雲の中の氷晶が太陽の光を反射してできる「ハロ」と呼ばれる現象、氷河や氷床から得られるサンプルの解析による過去の地球環境の変化、「雪まりも」や「斑点ぬれ雪」など雪や氷に関係するさまざまな自然現象とその原因について幅広く紹介していただきました。

なお、本講座の内容は、北見工業大学の講義「雪氷学」の一部を基にしています。

(学芸グループ 中田 篤)

平成28年度 春のロビー展

音を奏でる狩猟具

かな
ます や た か お
枡谷隆男のシカ笛コレクション



4月14日(木)～5月12日(木)
会場：北方民族博物館ロビー
＜観覧無料＞



シカ笛研究の第一人者・枡谷隆男氏が収集したコレクションを中心に、世界各地のシカ笛やその関連資料を紹介します。

関連事業

◆講習会「シカ笛づくり」

4月16日(土) 14:00～16:00

参加費100円(保険料)

◆講座「世界のシカ笛 狩猟と音楽の源流を求めて」

4月17日(日) 10:30～12:00 参加無料

講師：枡谷隆男氏（学校法人柏学園南幌みどり野幼稚園園長／当館研究協力員）

会場：北海道立北方民族博物館講堂

北海道立北方民族博物館研究紀要25号目次

〈研究ノート〉

ウイльтаの人名／笹倉いる美

イヌイト／エスキモーのクリベッジボード／野口泰弥

〈調査報告〉

サハ共和国トンボ郡におけるエベンのトナカイ用鞍について／中田 篤

ウイльта語調査報告—北部方言の文例(2)／山田祥子

網走市能取岬西岸遺跡c 地点発掘調査報告／種石 悠

〈資料紹介〉

平塚賢智氏製作の木彫り作品について／内田昌宏

〈資料〉

のりすと2015 — 北方研究データベース

／笹倉いる美

INFORMATION

行事報告

◆12月6日(日)、北方民族博物館映像上映会（講師：野口泰弥学芸員）を開催しました。

◆12月19日(土)、講座「トナカイ牧民の持ち物あれこれ」（講師：中田篤主任学芸員）を開催しました。

◆12月25日(金)、ロビーコンサート2015「青少年のための室内楽の夕べ」（出演：札幌交響楽団員）を開催しました。



ステージの様子

◆12月26日(土)、はくぶつかんクラブ「まが玉づくり」（講師：本間由美解説員）を開催しました。

◆平成28(2016)年1月9日(土)～1月24日(日)、ロビー展「オホーツクシリーズ9 写真展 北の状況から」を開催しました。

◆1月9日(土)、はくぶつかんクラブ「北方民族博物館の植物で染め物づくり」（講師：濱名亜璃紗解説員）を開催しました。

◆2月11日(木・祝)、第26回「北方民族博物館開館記念感謝DAY!」を開催しました。昨年好評だった「トナカイそり体験」を今年も楽しんでいただきました。他にも缶バッチづくり、北欧パンケーキ試食などが好評でした。



今年も好評だったトナカイそり

◆2月13日(土)、はくぶつかんクラブ「雪あそび」（講師：野口泰弥学芸員）を開催しました。

◆2月14日(日)、オーロラ上映&トークライブ「オーロラが私たちに語りかけるすてきなメッセージ」（出演：中垣哲也氏（オーロラメッセージャー））を開催しました。

◆2月15日(月)～2月17日(水)、北海道庁ロビー（札幌市）で「道立北方民族博物館展」が開催されました。

北方民族博物館だより No. 100

平成28(2016)年3月25日発行
編集・発行 北海道立北方民族博物館
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1
Tel 0152-45-3888 Fax 0152-45-3889
e-mail: tonakai@hoppohm.org
<http://hoppohm.org>
指定管理者

一般財団法人北方文化振興協会